HTMLの基本ルール

1.HTMLのインデント

• 目的:

- 。 階層構造を明示して可読性を向上
- インデントがないと、構造が把握しにくくなります

基本ルール:

- ネストした要素は子要素としてインデントを付ける
- スペース2~4個が一般的

例:

2. ul/li のルール

• 基本:

- (無順序リスト)の中には必ず 要素だけを記述する
- 他のタグやテキストを直接書くと、HTMLの構造が崩れる可能性があります

正しい例:

```
            項目1
            项目2
```

※ 注意:

o中に直接 <div>やテキストを書かないようにしましょう

3.CSSはクラスを使おう

• メリット:

- 。 再利用性・保守性が向上
- 複数要素に共通のスタイルを適用できる

• 具体例:

HTML側ではクラス名を付与し、CSSファイルでスタイルを定義します。

HTML:

```
<div class="card">
  <h2 class="card-title">タイトル</h2>
  ここに内容が入ります。
</div>
```

CSS:

```
.card {
  background-color: #f9f9f9;
  border: 1px solid #ccc;
  margin: 10px;
  padding: 20px;
}

.card-title {
  font-size: 1.5em;
  margin-bottom: 10px;
}
```

4.HTMLの親子要素と兄弟要素

- 親要素:
 - 。他の要素を内包する要素 (例: <div> 、)
- 子要素:
 - 。 親要素内に含まれる要素
- 兄弟要素:
 - 。 同じ親要素内に並ぶ要素

具体例:

```
<!-- 親要素と子要素の例 -->
<div class="container">
 <!-- 子要素 -->
 <header class="header">ヘッダー</header>
 <main class="content">
   <section class="section">
    <h1>セクションタイトル</h1>
    セクションの内容
   </section>
 </main>
 <footer class="footer">フッター</footer>
</div>
<!-- 同じ親を持つ兄弟要素の例 -->
<div class="sibling-container">
 段落1
 段落2
 段落3
</div>
```

5. margin と padding の役割

- margin:
 - 要素同士(兄弟要素)の外側の余白を設定
 - 適切に使わないと、要素間のスペースが不均一になり、レイアウト調整が大変

• padding:

- 要素内部、つまりコンテンツとボーダー間の内側の余白を設定
- 。親子要素間の余白としても機能する

例:

```
■box {
margin: 15px; /* 隣接する要素との間のスペース */
padding: 10px; /* コンテンツと境界線の間のスペース */
}
```

6. position: absolute と position: fixed の使い分け

position: absolute

• 特徴:

- 最も近いpositionが指定された親要素を基準に配置される
- 通常のレイアウトフローから外れるため、重なり順(z-index)にも注意が必要

• 利用例:

○ 特定の領域にオーバーレイやポップアップを表示する際

例:

```
<div class="relative-container">
        <div class="absolute-box">絶対配置されたボックス</div>
</div>
```

まとめ

- インデント: 読みやすいコードはインデントで階層が明確に
- ul/li: の中は必ず を使う
- CSSはクラス: HTMLとCSSは分離し、クラスでスタイル管理
- DOM構造:親子・兄弟の関係を正しく理解する
- **余白調整:** margin と padding を正しく使い分けることが大切
- position: absoluteは基準要素に依存、fixedは常に画面固定